

石川中校行進曲 (1957年制定)

- 一、実ゆたかに 稲穂がゆれて
石川湾の 波しずか
見よ光芒の 彩なす石川市に
我が学舎は 崇高くそびゆ
お、我が母校 石川中校
- 二、文化の華を 両手にかざし
真理の高嶺 極むまで
我ら撓まじ 力の限り
全魂注ぎ 学ばなん
お、我が母校 石川中校
- 三、高鳴る血潮 聖火ともえて
若き感激の 月桂冠
あ、我が行くて歓喜にあふれ
栄光常に 我とあり
お、わが母校 石川中校
- 四、風かぐわしく陽もうらうらと
生気みなぎる 学舎に
自治と自律の 鐘鳴りわたる
いざや進まん 千余の健児
お、我が母校 石川中校

みのりゆたかに いなほがゆれて
いしかわ わんの なみしずか
みよこうぼうの あやなすまちにわがまなびやは けだかくそびゆ
おおわが ぼこう いしかわちゅうこう

作曲兼 村寛俊

略歴

宮古島の生まれ。音楽教師
具志川市田場の小高い丘の上にあつた
学校（一九五〇年閉校）の音楽教師。
直後、音楽の授業を通して新生沖繩
つて立とうとする若者たちに夢を
授業では自作の歌をよく歌わせ生徒
しました。その後琉球大学で教鞭を執



略歴

那覇市久米の
弁護士
一九四六年に
政府法務部司法
官調査課長となり、その後、一九四
は石川治安裁判所判事となる。一九
中頭巡回裁判所判事、一九五八年国
裁判所判事、一九五九年中頭巡回裁
事を歴任。二代PTA会長を務めた。